

No.	大学名	プロジェクト名
	京都産業大学	グローバル人材PBL

参加学生 (登壇者★)	★大村柗人 (京都産業大学) 3回生 ★小林春貴 (京都産業大学) 3回生 ★山戸龍徳 (京都産業大学) 3回生	連携先からの ミッション	小型家電リサイクルをあたりの生活習慣・文化として、定着させるための施策を考えよ。
活動期間	2020.9 ~ 2021.2	受け入れ先 団体・企業名	リネットジャパングループ株式会社 様

ミッションへ取り組み概要 (自由記述, 図表・画像挿入可)

私たちは京都産業大学法学部の開講科目である「グローバル人材PBL」という授業で結成されたチームです。チーム名である「Rain」は、チーム名を何にしようかと決めかねていたとき、ちょうど雨が降っていたことから、その名前に決定しました。

私たちのチームは小型家電リサイクル事業やインターネットリユース事業等でグローバルに展開されているリネットジャパングループ株式会社様から上記のテーマをいただきました。まず、班で「あたりの生活習慣・文化に必要な要素は何か？」と考え、「宗教」や「伝統」といった意見が出てきましたが、その中でも私たちは「教育」に焦点を当てました。

そこから「小型家電回収事業」と「体験型環境教育」の2つを提案します。

前者は、学生団体(学生による学内の1つの会社のイメージ)が大学の研究で不要となったPCを回収します。それをクリーニング業者にクリーニング委託し、返ってきたものをPCを必要とする学生に無償で提供するというものです。又、市町村にも多くの退職PCが存在しているという事実があります。しかし、法人のPC回収には許認可が必要です。そこで、その法的規制を被らないリース会社が回収し、そのPCを学生に格安でリース、そして寿命がきているPCに関しては環境教育に有効活用します。

後者は、リネットジャパンさんの社員の方による学内での講演、社会科見学、リース事業で出てきた使用済みPCを技術家庭科の授業で子供達に解体してもらうといったことを考えました。実際に体験・体感してもらうことで、次時代を担う子供たちの環境意識を高めます。

これらの提案が小型家電リサイクルがあたりの生活・文化の確立、柔軟かつ多様な教育を実現します。そして、私たちの提案はSDGs第4、第5、第9、第12の目標達成に貢献します。

内容としてはかなりボリュームで複雑なものですので、詳しくは発表やその他の資料を参考にしてくださいと思います。はじめは理解に困ると思いますが、理解が進むにつれ、日本の環境に対する現状を考えさせられる良い提案だと気付くことでしょう！

ミッションに取り組む中で社会的課題として見えてきたこと (ミッションと深く関わる社会的な課題)

今や環境のことを考慮しないと淘汰されていく時代に突入しており、私たちがこのプロジェクトで環境のことを考えさせられたように、まだまだ日本人の環境意識は薄いです。それがEV車といった最新技術の遅れや低水準の教育につながっているのではないかと思います。

↓

いただいたミッションにある「小型家電リサイクルといった環境政策をあたりの生活習慣・文化に定着させる」ということは、その問題を解決する1つの策です。SDGsや脱炭素社会の達成年数を考えると、私たち若者が今からでも変えていかなければなりません。そのために環境教育が必要だと私たちは結論づけました。